

和歌山病院が大幅建て替えへ

病室も広く 総事業費22億円投入

美浜町和田、独立行政法人国立病院機構・和歌山病院(楠山良雄院長)は、老朽化した一般病棟と重症心身障害児者病棟を総事業費約22億円を投入して建て替えることになり、10月から準備工事に着手する。ベッド数全体で325床は変わらないが、病室が広くなり、バリアフリー化も図り入院環境が大幅に改善される。完成は重心病棟が25年秋、一般病棟は26年秋の見込み。

病院側によると、管理棟を除く一般病棟などは、昭和40年ごろの建設で、全体的に老朽化が目立つ。病室も狭いなどのため、約45年ぶりに大々的に建て替えることになった。

計画によると、重症心身

児者病棟は現在、40床3棟(計約2260平方メートル)あるが、これを取り壊し、新たに平屋2棟(計約3280平方メートル)を敷地南側の運動場に建てる。病床は現行40床3棟が60床2棟になるのでベッド数は増減なし。

一般病棟は現在3病棟(計約3960平方メートル)あるのを3階建て1棟(約4970平方メートル、165床)に建て替える。このほか重症心身児者用の療育訓練棟も新築し、音楽や各種機能訓練がよりスムーズに行えるようにする。

津波や震災に対する避難対策は、今後、工事を進めていくなかで、随時、具体策を検討していくという。

10月から準備工事に入り、12月から本格工事に着

手する計画で、重心病棟は来年秋、一般病棟は26年秋に完成予定となっている。総事業費約22億円。



建て替え後の和歌山病院完成予想図

今回の建て替えは、入院病棟だけで、管理棟は現状のままなので、外来患者への影響はなく診察は平常通り行われる。

病院側は「敷地のスペースの関係で順次工事を進めるので少し長引きご迷惑おかけしますが、完成すると入院環境が整備され、病室も広くなります」と話している。